

平成27年度第3回境港市総合教育会議
会議録

平成27年10月28日

いと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。
そうしますと、事務局の方から現在の状況について説明
してください。

※教育委員会事務局長が資料に基づき説明

中村市長 ただいま事務局の方から小学校及び中学校PTA連合会
からの要望事項と概算要求の内容について説明がござい
ましたが、特に概算要求については、本要求までに事業内
容の精査や財源の確保、施設整備については中長期的な計
画を定めなさいと指示をしたところです。ただいまの説明
について、皆様からご意見等ございませんか。

赤石委員 3点、お聞きしたいと思います。
まずは給食の配送車についてですが、実際明日にでも故
障する可能性もあるわけですが、対応は考えているのでし
ょうか。
次に施設整備の要求が出ているのですが、書類を見ても
現状が分からないので、できれば現場を見る機会を作って
いただいた後で検討させてもらったほうが、色々な意見
を出しやすいと思います。
3点目は、学校トイレの改修要望の中で、換気扇の改修
など原状回復のようなものは、新年度予算を待たずにすぐ
直すことはできないのでしょうか。

教委事務局長 学校給食の配送車ですが、現状4台で配送しております
が、1台故障しますと配送スケジュールがくるい学校の授
業にも影響するというので、予備車購入を予定しており
ます。それまでの対応策としては、第二中学校については、
手作業でも持っていける範囲内だと思いますし、誠道小学
校はコンテナではなく、食缶を車に積み、配送するという
ようなことも検討しております。

中村市長 そもそも予備車を1台持ってスタートするという考え
方が欠落していたのは確かなところでは。

2点目についてはどうですか。

学校教育課長 現場を見ていただくことは可能ですが、トイレ等も含め、P T Aから要望があったものについては事務局で現状を把握することに努めております。

中村市長 小修繕については、速やかに対応しているのではないですか。

教委事務局長 市長が言われましたように、3点目の小修繕については、安全・安心が第一ですので、随時対応しております。但し大規模な工事が伴うようなものについては、応急処置をしながら新年度予算で対応をしているところです。

中村市長 既存の予算で対応できない工事等の場合には新年度予算、対応できるものは速やかに修繕しているということです。このような要望事項があれば、担当課に加え財政課も状況を確認して、トータルで判断をしているところです。

足立委員長 境小学校から出ています、児童クラブの朝の開所時間を30分早めることと、早退ができないかという要望ですが、保護者の生活にも直結するようなことなので、早急に対応していただければと思いますが。

教委事務局長 本日小学校P T A連合会の会長が来られたときに、現状は境小学校単独の要望ですので、連合会全体の問題としてもう一度協議していただくようなお話しをさせていただいたところです。

谷田委員 今の要望は、私が境小学校P T Aの立場で出させていただいたものです。今年の夏休みに初めて児童クラブを利用させていただいたときに、保護者として非常に不便を感じたものですから、改善をいただけるとありがたいのでご検討のほどよろしくお願い致します。

永井委員

児童クラブの開所時間については全市的なものではありませんが、個々の要望は沢山出てくると思われます。要望が多いから対応するというのではなく、子供たちにどうい
う影響があるのか総合的に考えて、よく話を詰めていくべきだと思います。

佐々木教育長

児童の送り迎えについては、安全の確保ができるのかということに尽きると思います。児童クラブによっては、学校と離れたところもござい
ますので、安全確保については指導員だけではなかなか対応しきれないということもあり、お迎えに来ていただくということ
を原則としております。この要望を聞くということになりますと、この原則を外れて何らかの方策が必要になります
ので、書類を取り交わすということも含めて検討させていただきます。

朝の開所時間ですが、確かに8時30分から勤務の方にはご不便があるかと思
います。30分早めることがPTA連合会全体の要求であれば、それに
応えるべく対応をとっていく必要があります。開始は8時30分、但し開門は30分早めるという対応の仕
方もあるのではないかと検討をしています。いずれにしてもPTA連合会が児童クラブのあるべき姿として
要望をいただければと思っております。

中村市長

前回の総合教育会議で策定した「境港市教育施策推進大綱」の中にも、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、
学力向上対策を行うと規定をしておりますが、今年度の全国学力・学習状況調査の結果について説明してください。

※学校教育課長が資料に基づき説明

中村市長

大変よく理解できました。やはり全国学力・学習状況調査の結果を見ますと、学力の向上が課題だ
というように感じます。来年度の予算編成にあたりどのようなことを考えていますか。

※学校教育課長が資料に基づき説明

中村市長 ご意見等はございませんか。

赤石委員 英語教育の充実に関しては、本市の地域特性に合ったものにしていただきたい。

hyper-QUからQ-Uへと検査方法を見直すということですが、教職員の負担が多い中で、また自分たちで集計するとなるとさらに負担が増えますし、各学校で分析してしまうと、基準があいまいになり適正な分析ができなくなる恐れがあるのではないのでしょうか。

学校教育課長 英語教育はどんどん進めていき、教育するなら境港市にまでなれたらという想いでやっております。

教職員の負担につきましては、電子化を推進し、会議を減らす工夫などあらゆる角度から取り組みを進めるとともに、情報の共有も行っております。また基準の統一ということでは、各学校の行う分析には教育委員会も必ず入り、一緒に検討をしたいと思っております。

谷田委員 英語教育の充実については、本市にはクルーズ船が入港し外国人の方も大勢入っている状況であり、この恵まれた環境をうまく活用すれば、こちらから海外に出向いていかなくても、低予算でより多くの子どもたちに国際理解教育や英語教育の機会が与えられるのではないかと思います。

学力向上対策について、対全国というところでの個人的見解ですが、教育に関して地方は比較的ゆったりとしていて、都会では競争力が高いですから時間、お金や労力を投下しているところがあり、実体験でも地方と都会の学生との意識レベルの差を痛感しております。中央から講師を招いたり実際に中央へ出向き体験をするなど、この意識レベルの差を埋めるような事業展開ができると学力向上にも繋がっていくのではないかと感じています。

学校教育課長 検討していきたいと思えます。

永井委員

学力向上に関してですが、全国学力・学習状況調査の結果を見て分かることは、学習時間や家庭学習の時間が少なければ学力が下がっているという結果が出ています。家庭学習の時間が減っている原因は色々あるかと思いますが、メディアへの関わりが増えているのは明らかです。これを学校で言っても限界はあるので、様々な機会を捉えてメディアが心や体に与える悪影響を知っていただいて家庭の意識を高めていく必要があるかと思います。

中村市長

メディアへの関わりが多ければ、学力にはマイナスであるという結果が出ているわけですから、以前からあるノーテレビデーといった取り組みを進めないといけませんね。

永井委員

人間形成の上でも悪影響を及ぼすという結果が出ていますので、子どもたちを大事に育てて、メディアの危険性も知っていただきたいと思います。

赤石委員

確かに子守をするときに一番楽なのはテレビを見せることという安易な考えがありますので、学校からでも意識改革をしていただければと思います。

中村市長

「子育てするなら境港」を掲げておりますし、市と教育委員会で連携して取り組みましょう。

足立委員長

中学校の参観に行ったときに、数年前と比べまして先生方の授業に対する熱意とか生徒たちの表情が非常に明るくなったという感触を持ちました。しかしながら全国と比較すると予習復習をする子どもが少ないので、授業の予習復習をしなければ楽しい授業にならないというような工夫をしていただき、さらに加配や指導補助のレベルアップに予算を充当していただくと中学校の学力向上がプラスに働くのではないかと思います。

中村市長 宿題をしなければいけないというような、もっと子どもたちへの動機付けみたいなものはないのでしょうか。

学校教育課長 工夫した出し方や宿題をやってきていると得するというような関係性が必要かもしれません。

中村市長 そこがきちんとできていれば、勉強時間も増え学力の向上に繋がるのでは。

学校教育課長 鳥取県教育センターに1年間派遣しています教員が、第三中学校で実験的に1ヶ月間、反転学習というものに取り組んでおります。家で勉強をしてきて学校で習うとよく理解ができるということを検証していただいていますので、有効であるということが分かれば広めていきたいと考えております。

佐々木教育長 一番は教員の意識改革にあると思います。宿題もどういう与え方をするといいのか、担任や学校がきちんとすることが第一です。CRTも行いながらどのようにすれば学力を伸ばしていけるのか、教員に問い続けていかなければいけません。CRTに全国と比べてどこが劣っており優れているのかということがきちんと出ますので、これを各学校で研究が行われるよう、指導主事が指導します。

現在小学校には外国語活動というものがありますが、平成32年度に小学5、6年生は英語科になり、小学3年生から英語教育が始まります。それと同時に大学入試が大変革していきます。リーディングとライティングで受けていたものが、ヒアリングとスピーキングが試されるような入試に変わるのではないかと言われています。このような力をつけるためには、まずは英語嫌いをなくす必要があると考えています。例えば地域の英語が堪能な人材が、学校に入り、子どもたちと交流していただきながら、英語好きを育てていくというようなことをしなければなりません。どんなに学力はあっても外国語ができないために自己実現

に結びつけられないということが起こってきますので、できれば境港市は他よりも、外国語においては一步二歩先を行きたい。そのためベネッセコーポレーションに教員を派遣し、企業が持っているノウハウを研究させています。その成果は、できる範囲で予算要求をさせていただきたいと考えております。

中村市長

必ずしもALTということではなく、地域の人材など教育のノウハウを持っている人を活用するなど、教育委員会として考えるところがあれば、新年度予算要求に反映させていただきます。

その他協議・調整事項はございませんでしょうか。

本日予定しておりました協議・調整事項は以上となります、ありがとうございました。